

科学技術政策担当大臣等政務三役と
総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合
議事概要

- 日 時 平成27年12月17日（木）10：00～10：23
- 場 所 中央合同庁舎 8号館 6階623会議室
- 出席者 島尻大臣、酒井政務官
原山議員、久間議員、内山田議員、
小谷議員、中西議員、平野議員、大西議員
石原内閣府審議官、中西審議官
上谷企画官

○議事概要

○原山議員 皆様、おはようございます。ただいまより科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合を開催いたします。

本日は、松本副大臣と有識者の橋本さんが御欠席でございます。

本日は議題が2つございます。議題1のほうなのですが、「国家的に重要な研究開発の評価について」と、もう一つの議題が「特定国立研究開発法人（仮称）の考え方の改訂について」でございます。

前者のほうは公開とさせていただいて、後者のほうは非公開というふうにしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、まずプレスをお願いいたします。

（プレス入室）

議題1. 「国家的に重要な研究開発の評価について」について

○原山議員 まず議題1でございます。

「国家的に重要な研究開発の評価について」ということで、A I P : Advanced Integrated Intelligence Platform Projectと「石炭ガス化燃料電池複合発電実証事業費補助金」と、2つのテーマでございますが、事務局のほうからまず説明させていただきます。

<上谷企画官より説明>

○原山議員 ありがとうございます。

次回の本会議に上げるという資料でございます。御質問、コメントがございましたら、よろしくお願ひいたします。

いかがでしょうか。

これは評価専門調査会のほうで、久間さんが取りまとめてくださっております。何かありましたら。

○久間議員 少し厳しめにしております。

○原山議員 ということでございます。

○中西議員 実際、A Iのほうは、なかなか体制を固め切れていないという感覚ですよ。

○久間議員 文科省、経産省、総務省が、一体的に運営する方向で検討し始めました。文科省と経産省のセンターの場所も同じ場所にしてほしいと申し入れています。実現すると、これをモデルとして国の研究開発体制が変わると思います。

○平野議員 それぞれセンターを一緒にするというをおっしゃられたけれども、A I Pセンターというのは、もちろん一つなのですね。

○久間議員 A I Pセンターという名称のセンターは文科省です。

○平野議員 経産省、文科省それぞれに違うセンターができるのですか。

○久間議員 A I Pセンターは文科省なのです。経産省は、実は別の名称のセンターです。違うセンターを既に作ったのです。

○平野議員 早急にしなければいけない「鍵を握るセンター長の人選」というのは、これはどのセンター長のことでしょうか。

○久間議員 文科省プロジェクトのセンター長です。経産省プロジェクトのセンター長は、辻井先生に決まっています、もう動いているのです。

○平野議員 私は全体のセンター長の人選かと思ったら、そうではないのですか。

○久間議員 両センター長の上に、組織全体を取りまとめるリーダーを作るよう提案しています。

○上谷企画官 それについて補足させていただきますと、主要な指摘事項の①というのが、ま

ずAIPセンターのセンター長のことでございます。それから次の②のところで、統括するリーダーの配置とありますけれども、それが次のページの2ページ目の概念図のとおり、これは、十分まだ固まっていない部分もあるのですが、3省が連携してやるということで、これを統括するリーダーを置いてくれとしています。このように、2つ指摘しているということです。

○平野議員 形式的にも一つのセンターにならなかったのですね。

○久間議員 今までは、それぞれの省庁が別々の場所に同じような研究所あるいは拠点を作って、ほとんどばらばらに動いていました。今回は、それぞれの省庁がセンター長を置いてもいいけれども、2つのセンターを統括するリーダーを作りましょうということと、それらを同じ場所で作ることが、我々の提案です。いま、各省庁で検討を始めています。

○原山議員 あくまでもこれはAIPの最初の入り口の評価ということで、それに対するコメントを付け加えて再度チェックしますというやり方でございます。

よろしいでしょうか。

では小谷さん。

○小谷議員 こちらに書いてあるので、問題ないと思うのですが、この分野は人材が圧倒的に欠けていますので、人材育成をしっかりとやっていただきたいと思います。

○原山議員 内山田さん。

○内山田議員 これぐらいの内容と規模のプロジェクトになると、本当の意味でのナショナルセンターというものを作る必要があるのではないのでしょうか？。または、各省の上に何かのまとめを置くのであれば、各研究所の役割がもっと明確にならないと機能しないと思います。明確にはできないことをやろうとしているのに、各省庁が明確に分担して連携するというのは、もともと無理がある構造設計ではないかという気がするのです。各省、各研究所の役割を明確にするか、本当意味で省庁を越えたナショナルセンターを作るかというところは、しっかり議論していただきたいなという気がします。

○久間議員 我々の全く知らないところで経産省のセンターはできたのです。

なぜ文科省のセンターを我々が評価しているかといいますと、文科省の計画は予算トータルが数百億円の規模に上るため、CSTIの評価専門調査会で、センター設立の目的や組織、スケジュール等を事前評価しています。しかし経産省のセンターはそれほど大きな規模ではないから、我々が知らないところで独自に作ったわけです。

○原山議員 これは、あくまでも評価専門調査会の中での評価事項ということで、それは今、

久間さんがおっしゃったように、上がってくるものに対する評価をしていく。でも、CSTIとしては、今、内山田さんがおっしゃったように、全体を見なくてはいけない。そのロジックからは、今、おっしゃった指摘は非常に重要なので、できる限りその内容をこの中のコメントに詰めているという実質的な話です。

この案でよろしいでしょうか。

では本会議での準備ということで、今後のことをよろしく願いいたします。ありがとうございました。

議題2. 「特定国立研究開発法人（仮称）の考え方の改訂について」について

<非公開>

以上